検索システム「サプラス」

操作マニュアル

この度は、検索システム「サプラス」をご利用いただき
誠にありがとうございます。
本マニュアルでは、サプラスの操作についてご説明します。
尚、内容は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

briar patch

目次

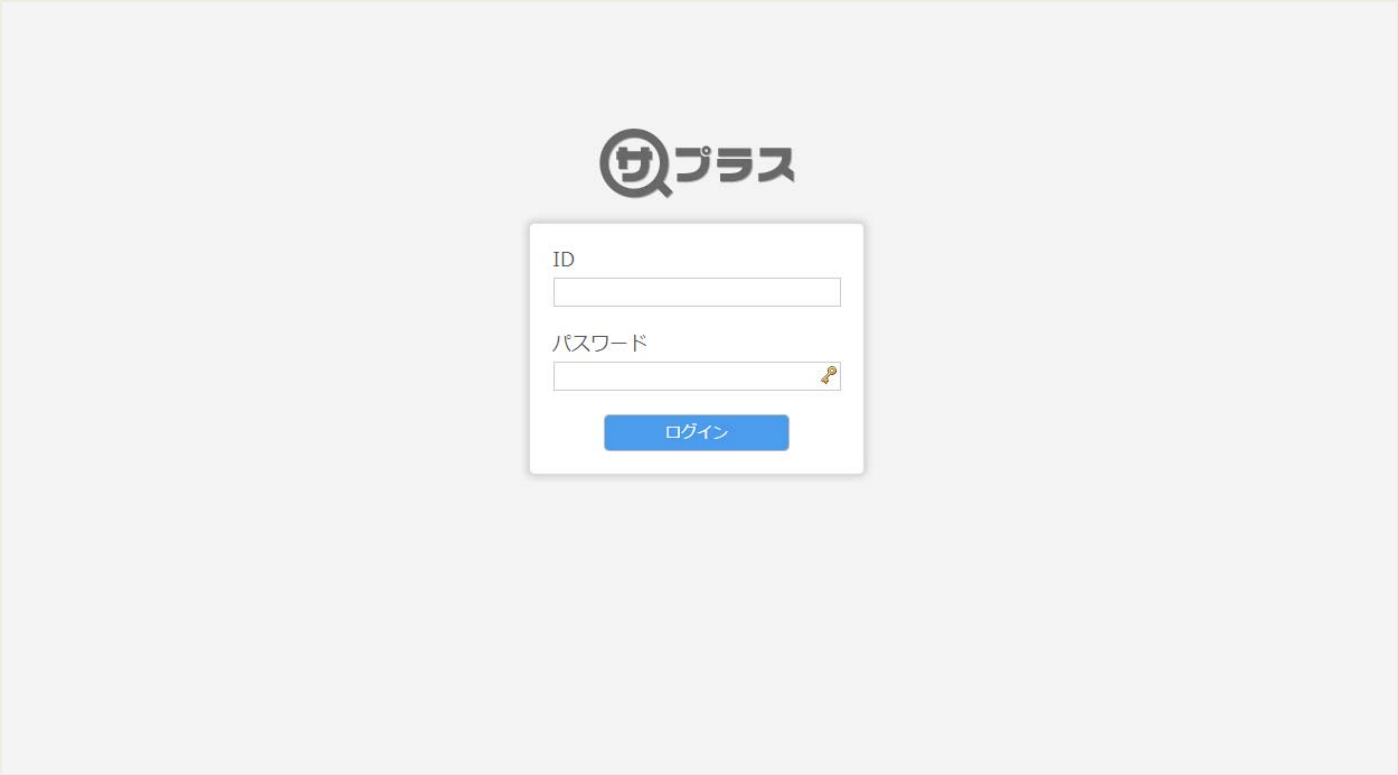
1.はじめに行なうこと 3
1-1.ログイン画面 3
1-2.データベーステンプレート設定画面 4
1-3.管理画面 TOP 5
2.サプラスの使い方 6
2-1.テンプレートの準備 6
2-2.商品項目の設定 10
2-3.検索条件の設定 12
2-4.検索データの設定 15
2-5.商品データの設定 18
2-6.テンプレートの設定 20
2-7.TOP ページに検索フォームを設置 33
2-8.動作確認・修正 34
3.商品データの管理 35
3-1.商品項目の設定 35
3-2.商品データの管理 36
3-3.商品データの追加・編集 38
3-4.商品データの CSV インポート 39
4.検索条件の管理 40
4-1.検索条件の設定 40
4-2.検索条件の追加・編集 42
4-3.検索条件の CSV インポート 43
4-4.検索データの設定 45
4-5.検索データ追加・編集 47
4-6.検索データの CSV インポート 48
5.テンプレート編集機能 49
5-1.検索結果ページテンプレート編集 49
5-2.商品詳細ページテンプレート編集 53
6.その他設定 55
6-1.その他設定 55

1.はじめに行なうこと

1-1.ログイン画面

下記 URL でログインページにアクセスし、設定ファイル(login.ini.php)で設定したログイン ID とパスワードでログインします。

http://サプラスを設置したドメイン/search/manage/login.php



1-2.データベーステンプレート設定画面

データベースのテンプレートをいくつか用意してあります。作成したいジャンルに近いデータベーステンプレートを選び、作成ボタンを押してください。１から全てを設定したい場合は「何も設定しない」を選択して作成ボタンを押してください。

データベーステンプレートは下記の５つから選択できます。

キャッシング

クレジットカード

FX

脱毛サロン

美白化粧品

データベーステンプレート以外にデフォルトで HTML のテンプレートも用意していますが、こちらは１種類だけになります。**デフォルトの HTML のテンプレートが対応しているデータベーステンプレートは「キャッシング」のみになります。**

この画面は初回ログイン時に１度だけ表示されます。

1-3.管理画面 TOP

① テンプレート設定画面

テンプレート設定画面へ移動します。

② データベース設定画面

データベース設定画面へ移動します。

③ アップデートリンク

サプラスのメンバーページへ移動します。

現在使っているバージョンより新しいバージョンがリリースされた時に表示されます。

④ 更新情報

サプラスの更新情報が掲載されます。

2.サプラスの使い方

2-1.テンプレートの準備

ここからは、サプラスの一般的な使い方を流れに沿って説明していきます。

慣れてくればやりやすい方法で設定してもらえたらと思いますが、はじめての場合は下記の流れが一番分かりやすいと思いますので、この流れで説明していきます。

2-1.テンプレート準備

↓

2-2.商品項目の設定

↓

2-3.検索条件の設定

↓

2-4.検索データの設定

↓

2-5.商品データの設定

↓

2-6.テンプレートの設定

↓

2-7.TOP ページに検索フォームを設置

↓

2-8.動作確認・修正

以上の流れを、実際のサイトにサプラスを組み込んでいく形で使い方を説明していきます。

今回は、化粧品のサイトにサプラスを実装していきます。

実装前（TOP ページ）は次の様になっています。

この状態からサプラスを実装していきます。

以下の URL から挿入前と挿入後の実際のサイトをご覧いただけます。

サプラス挿入前：http://serplus.org/before/

サプラス挿入後：http://serplus.org/after/

それぞれのサイトを見比べながらマニュアルを読み進めるとわかりやすいです。

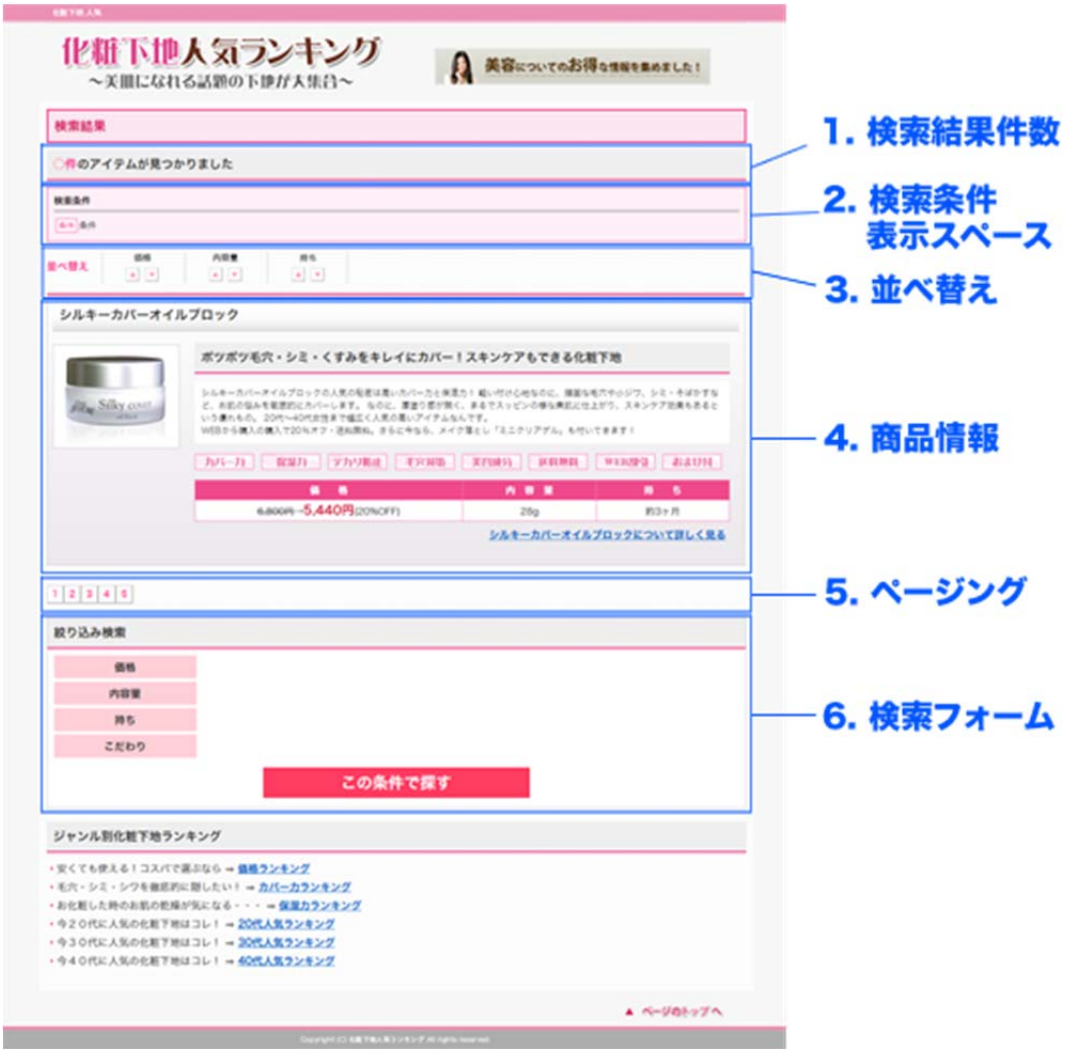
ではまず、検索結果・詳細画面の HTML テンプレートを準備します。

※検索結果からそのまま外部のサイトに飛ばす場合は、詳細画面は無くても大丈夫です。

ここでは検索ページの見た目を作成するので、商品等は仮のデータで構いません。

サイトのデザインと合わせる為に、今回は以下の様な HTML テンプレートを作成しました。

http://serplus.org/after/source_search.txt



検索ページのテンプレートには以下の 6 つの要素を含んで作成します。

1．検索結果件数

2．検索条件表示スペース

3．並べ替え

4．商品情報

5．ページング

6．検索フォーム

商品の情報や検索条件など、今は仮のデータを入れていますが、後程 2-6 で各データを変換文字列に変更していきます。

ページのデザインが完成したら、検索結果ページのテンプレート準備はこれで完了です。

詳細画面も作成する場合は、同じように仮のデータを入れたページを作成し、デザインを整えます。

今回は以下の様な詳細画面の HTML テンプレートを作成しました。

http://serplus.org/after/source_detail.txt

こちらのデータも 2-6.テンプレート設定で、変換文字列に変更します。

必要なテンプレートを作成したら、次は管理画面で各種データの設定を行います。

2-2.商品項目の設定

では、商品項目の設定を行いましょう。

サプラスでは 1 つの商品情報に最大で URL データ 5 個、テキストデータ 50 個、数値データ 50 個、チェック項目データ 20 個の計 125 個のデータをセットすることが出来ます。

商品項目の設定では自分が使いたい項目にチェックをいれて、その項目の分かりやすいタイトルと変換文字列を入力します。

変換文字列とは HTML テンプレートで使うデータです。

例えば URL データ 01 で「url」と設定し、HTML テンプレートに変換文字列を入れると下記のように変換してくれます。

例：公式サイト→公式サイト

今回は下記のようにデータを入力し、登録しました。

	タイトル	変換文字列
URL データ 01	URL	url
テキストデータ 01	商品名	name
テキストデータ 02	価格	price
テキストデータ 03	内容量	volume
テキストデータ 04	持ち	tokutyou
テキストデータ 05	こだわり	feature
テキストデータ 06	キャッチ	catch
テキストデータ 07	テキスト	txt
数値データ 01	価格_数値	
数値データ 02	内容量_数値	
数値データ 03	持ち_数値	
チェック項目データ 01	こだわり_check	

価格・内容量・持ちの項目は、テキストデータと数値データ両方に項目を設定しています。

理由は表示用と検索データ用で分けているからです。
「価格」で説明すると、例えば化粧下地 1 の価格が 5,000 円だった場合、商品データの入力で
テキストデータ→5,000 円
数値データ→5000
上記のように値を入力します。

テンプレートに表示する価格はテキストデータを使います。
<h4>価格</h4>
[[price]]
↓
<h4>価格</h4>
5,000 円

数値データは検索用に使います。
テキストデータに数値を入れることも出来ますが検索条件が上手く動作しない可能性があるため検索条件の数値は必ず、数値データに入力するようにしてください。
この設定方法は検索条件、検索データの設定で詳しく説明します。

数値データ 01~03、チェック項目データはテンプレート上で使わないので変換文字列は入力していません。

2-3.検索条件の設定

次に検索条件の設定をします。

検索条件は、化粧下地の特長や価格等、サイトで検索項目として表示したい項目を設定します。

ここでは例として価格を検索する項目を作ってみます。

メニューの検索条件をクリックして検索条件設定画面を開きます。次に新規追加ボタンをクリックして検索条件の追加画面を開きます。

今回は下記のようにデータを入力しました。

タイトル → 価格
表示形式 → プルダウン
検索対応項目 → 価格_数値(num01)
検索条件 → AND 検索
表示 → 表示する

タイトルは検索フォームの下記項目に表示される値になります。HTML タグも入力可能です。

表示形式はプルダウンを選択していますが、プルダウン、リストボックス、チェックボックス、オプションボタン、テキストの中から好きな表示形式を選ぶことができます。
※プレビュー画面内でのフォームのデザインはデフォルトのものになっていますが、サイトに埋め込む際には css などでサイトに馴染む形で設定できます。

検索ユーザーに 1 つだけの値を選択してもらいたい場合はプルダウン、リストボックス、オプションボタンを選択し、複数の値を選択できるようにする場合はチェックボックスを選択し、キーワードで検索できる項目にしたい場合はテキストを選択します。

今回の価格は検索ユーザーに 1 つだけの値を選択してもらいたいのでプルダウンにしています。

検索対応項目は検索ユーザーがこの検索条件で検索したときに対象となるデータを選択します。今回は数値データの価格_数値(num01)を検索対応項目にしています。間違えてテキストデータの価格を選ばないようにしてください。

検索条件は検索ユーザーが複数の検索項目（例えば価格と容量）の条件で検索したときに、両方に一致したものを検索結果として表示する「AND 検索」か、どちらか片方の条件に一致したものを表示する「OR 検索」かを選べます。基本的には絞り込み検索になると思うので AND 検索を選択します。
また表示形式をチェックボックスにした場合、複数の値を選択できますがその場合は自動的にチェックした項目全てに一致するものを抽出する AND 検索になります。

表示項目はこの検索条件を利用するかどうかを選びますので、「表示する」にします。

価格以外にもあと３つ検索項目を作り全部で４つの検索条件を作りました。

		並べ替え	タイトル	表示形式	検索対応項目	検索条件	表示
	編集 データ編集 表示 削除	▽	価格	プルダウン	価格_数値(num01)	AND検索	表示する
	編集 データ編集 表示 削除	△ ▽	内容量	オプションボタン	内容量_数値(num02)	AND検索	表示する
	編集 データ編集 表示 削除	△ ▽	持ち	オプションボタン	持ち_数値(num03)	AND検索	表示する
	編集 データ編集 表示 削除	△	こだわり	チェックボックス	こだわり_chek(check01)	AND検索	表示する

次にデータ編集ボタンをクリックして検索データの設定画面を開きます。

2-4.検索データの設定

検索データの設定画面が開いたら新規追加ボタンをクリックして検索データ編集画面を開きます。

価格は下記 5 つのデータを設定しました。

表示項目	データ	比較方法
指定しない	0	指定しない
3000 円以下	3000	以下
4000 円以下	4000	以下

5000 円以下	5000	以下
6000 円以下	6000	以下

まず１つめに表示項目「指定しない」、データ「0」、比較方法「指定しない」は選択されたときに全てのデータが検索対象になります。**検索条件がチェックボックス、テキスト以外は HTML 仕様上一度選択すると解除することができません。**

あとから検索ユーザーが条件を解除したいこともあるのでユーザビリティを考えて必ず設定するようにします。

２つ目以降のデータは、検索ユーザーにその項目が選択されて検索ボタンを押されたときに、価格_数値(num01)に入力されている数値データが、選択した項目のデータ以下の商品情報を抽出する設定になります。

内容量は下記５つのデータを設定しました。

表示項目	データ	比較方法
指定しない	0	指定しない
20g 以下	20	以下
30g 以下	30	以下
40g 以下	40	以下
41g 以上	41	I 以上

持ちは下記４つのデータを設定しました。

表示項目	データ	比較方法
指定しない	0	指定しない
1 ヶ月未満	1	未満
3 ヶ月未満	3	未満
3 ヶ月以上	3	以上

こだわりは下記の８つのデータを設定しました。

表示項目	データ	比較方法
カバーカ	1	イコール
保湿力	2	イコール
テカリ防止	3	イコール
毛穴対策	4	イコール
美容成分	5	イコール
送料無料	6	イコール
WEB 割引	7	イコール
おまけ付	8	イコール

「こだわり」の表示形式はチェックボックスとしているので、検索ユーザー側で全てチェックを外すことができます。その為、比較方法の「指定しない」は設定していません。

※検索データ設定補足情報

・例えば時間等の単位の違う数値（分と時間）を設定する場合には「30 分以内→0.5」、「1 時間以内→1」、「当日中→24」のように 1 時間を数値の 1 に換算して設定します。

・テキスト検索を利用する場合には事前に準備するデータがないので検索データは作りません。

これで検索条件、検索データ共に全て設定できました。

2-5.商品データの設定

次に商品データを追加します。メニューの商品データをクリックして商品情報設定画面を開き、新規追加ボタンをクリックして、商品情報追加画面を開きます。

データは下記のように入力しました。

URL(url01)	http://www.apros.co.jp/silkycover/pc/lp01.html
商品名(text01)	シルキーカバーオイルブロック
価格（text02)	5,440 円
内容量(text03)	28g
持ち(text04)	約 3 ヶ月
こだわり(text05)	カバーカ保湿力テカリ防止・・・
キャッチ(text06)	ポツポツ毛穴・シミ・くすみをキレイにカバー！スキンケアもできる化粧下地
テキスト(text07)	シルキーカバーオイルブロックの人気の秘密は高いカバーカと保湿力！・・・
価格_数値(num01)	5540
内容量_数値(num02)	28
持ち_数値(num03)	3
こだわり_check(check01)	1,2,3,4,5,6,7,8

検索条件で説明したように価格_数値（num01)・内容量_数値(num02)・持ち_数値(num03)にはテキスト項目に対応する数値「5,440 円→5440」「28g→28」「約 3 ヶ月→3」をいれてあります

こだわり(text05)にはこだわり_check(check01)にチェックが入っている項目をテキストで入力しています。仮にこだわり_check(check01)が「1,3」だった場合はこだわり(text04)には「カバーカテカリ防止」と入力します。

※HTML タグでくくっているのは、実際にページが表示された時に css が適用されるようにしているからです。テキストデータ内では HTML タグの入力が可能ですので、デザインする際に役立ちます。

シルキーカバーオイルブロック以外にも 5 つ商品情報を登録し、合計で 6 つにしました。

これでデータベースの設定は完了です。

続いてこのデータを検索結果や商品詳細ページに表示するテンプレート機能を説明します。

2-6.テンプレートの設定

メニューのテンプレート設定-検索結果ページをクリックして検索結果テンプレート設定画面を開きます。

そして、これが現在の検索結果ページです。HTML テンプレートはデフォルト状態です。

これを商品項目で設定した内容に合わせて、準備したテンプレートに変更していきます。

①検索結果ページテンプレート

では、一番上のボックス「検索結果ページテンプレート」から変更します。

▼ 検索結果ページテンプレート

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" />
<meta http-equiv="content-style-type" content="text/css">
<meta http-equiv="content-script-type" content="text/javascript">
<meta name="description" content="" />
<meta name="keywords" content="" />
<link href="css/style.css" rel="stylesheet" type="text/css" />
<script type="text/javascript" src="js/sort.js"></script>
<title>検索結果</title>
</head>
<body>
<div id="container">
    <div id="header">
```

検索結果ページテンプレートは検索ページ全体の HTML テンプレートになります。

検索結果件数や並べ替えの要素もここに含まれます。

準備したテンプレートの以下の青枠に当たる箇所のソースを、ここにコピー＆ペーストします。

※ページ上部の「検索条件」の部分は後程編集するので、ここでは含まれません。

デフォルトのソースの該当する箇所を置き換えます。

今回はわかりやすい様に１つずつテンプレートを更新していきたいと思います。

検索結果ページテンプレートの部分のみを変更し、更新した場合、ページは以下の様になりました。

デフォルトの状態から、先ほど青枠で囲っていた部分に変わっています。

参照する css を変更したので、ページのデザインも変わりました。

検索結果件数[[result_num]]も正しい件数に置き換えられています。並べ替えのリンクも正しく表示されているか確認しましょう。（並べ替えのリンクについて、詳しくは下記のテンプレート編集時の注意点で確認してください。）

この状態の検索結果ページテンプレートのソースは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/source1.txt

※検索結果ページテンプレート編集時の注意点

・並べ替え（ソート）のリンク

価格の並べ替えボタンに「▲」の様な昇順のリンクがあります。[[num_item01_asc]]という変換文字列は実際に表示された時、商品項目の数値データ 01 の商品データを基準に昇順で並べ替えるという意味の JavaScript に変換されます。

```
<th class="rate">価格<br><a href="#" onClick="t_sort('num_item02','asc');" class="sort_up">▲</a><a href="#"
onClick="t_sort('num_item02','desc');" class="sort_down">▼</a></th>
```

これをまちがってテキストデータ 02(価格)の[[text_item02_asc]]としてしまうと、上手く動作しないので注意してください。

・sort.js

ヘッダーにある sort.js を参照している箇所は必ず残すようにしてください。この部分を削除してしまうと検索結果ページのソート（並べ替え）が動かなくなってしまうので注意が必要です。

```
<script type="text/javascript" src="js/sort.js"></script>
```

テンプレートを変更する前に、上記の箇所をオリジナルのテンプレートのヘッダーにコピーしておきましょう。

・部分テンプレートの変換文字列

①検索結果ページテンプレートでは、検索結果・検索フォーム・検索条件の部分は変換文字列で扱います。

・検索結果→[[search_result]]

・検索フォーム→[[search_form]]

・検索条件→[[conditions]]

実際にページを変更した際にそれぞれの変換文字列には、以降で説明する②検索結果テンプレート・③検索フォームテンプレート・④検索条件テンプレートの内容がそれぞれ挿入されます。

②検索結果テンプレート

これは検索結果の１つ１つのテーブルに対応する HTML テンプレートになります。

①の[[search_result]]の部分に挿入されます。

▼ 検索結果テンプレート

```
<!--商品情報テンプレート start-->
<tr>
<td rowspan="3" class="company"><a href="
[[afili_url]]">[[company]]</a></td>
<td>[[rate_min]]%～[[rate_max]]%</td>
<td rowspan="2">[[shinsa_txt]]</td>
<td rowspan="2">[[speed_txt]]</td>
<td rowspan="2">
[[convenience]]
</td>
<td rowspan="3">
<a href="[[afili_url]]"
class="btn_official">公式サイト</a><br>
<a href="[[detail_url]]"
class="btn_detail">詳細ページ</a>
```

準備していたテンプレートでは、以下の青枠で囲っている部分です。

準備していたテンプレートの検索結果（商品情報）の部分の各データを、2-2 で設定した各変換文字列に変更します。

（例）

シルキーカバーオイルブロック→[[name]]

5,440 円→[[price]]

全てのデータを変換文字列に置き換えたら、②検索結果テンプレートのテキストボックスに入力して更新します。

更新した結果、以下の様に表示されるようになりました。

各変換文字列が実際のデータに置き換えられています。

また、その他設定で設定している、1 ページの表示件数分の商品情報が表示されています。（※現在の 1 ページ表示件数は 3 件で設定しています。この設定については、6.その他設定で詳しく説明します。）

この状態の検索結果テンプレートのソースは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/source2.txt

③検索フォームテンプレート

▼ 検索フォームテンプレート

```
<!-- フォームテンプレート start -->
<form name="s_form" id="s_form" method="post" action="
[[action_url]]">
<table id="search_form">
<tr>
<th class="table_head" colspan="2">絞り込み検
索</th>
</tr>
[[form_auto]]
</table>
<p id="btn_space"><input type="button"
onClick="document.s_form.submit();" value="この条件で絞り込み検索"></p>
</form>
<!-- フォームテンプレート end -->
```

こちらは検索結果画面の検索フォームの部分のテンプレートです。

①の[[search_form]]の部分に挿入されます。

準備していたテンプレートでは、以下の青枠で囲っている部分です。

ここでは、[[form_auto]]の部分に 2-3~4 で設定したフォームが自動で挿入されます。
自動生成のフォームは、テーブルのタグ（tr,th,td タグ）で形成されるので、<table>タグで[[form_auto]]を囲むとデザインしやすいでしょう。

テーブルの class や id、フォームの見出し（「絞り込み検索」となっている部分）やボタンのデザイン、テキスト等のデザインは好きな様に変更可能です。

以下の画像がこの部分を変更し、更新した状態です。（商品情報部分は省略しています）

青枠で囲っている部分が、[[form_auto]]で自動的に生成された箇所です。
項目のヘッダー部分は、css を使う事で背景色を変えています。

この状態の検索結果フォームのソースは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/source3.txt

検索フォームテンプレート変更時には以下の点に注意して行ってください。

※フォームテンプレート修正時の注意点

・**<form ・・・>タグは消さないでください。**フォームが正しく動作しなくなります。テーブルからボタンまで、全ての要素を囲むように<form>タグを設置してください。

・**ボタンのタグ内に「onClick="document.s_form.submit();"」の JavaScript を入れてください。**検索を実行するスクリプトなので、この部分を消してしまうとボタンを押しても検索が行えません。

④検索条件表示テンプレート

▼ 検索条件表示テンプレート

```
<div id="search_condition">
        <h4 class="head">検索条件</h4>
        [[conditions_auto]]
</div>
```

検索条件を表示する箇所です。

①の[[conditions]]の部分に挿入されます。

準備していたテンプレートでは、以下の青枠で囲っている部分です。

ここでは、[[conditions_auto]]の部分に、検索条件が自動的に生成・挿入されます。

更新した結果、以下の様に表示されるようになりました。

上記の青枠で囲っている部分です。

css で各項目のヘッダーの色等を変更しています。

この状態の検索条件のソースは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/source4.txt

以上で検索結果ページの各テンプレートの設定が完了です。

検索結果や商品詳細ページのデザインは HTML テンプレートで変更できる箇所は HTML、CSS で変更します。検索条件結果等のシステムが自動で生成する部分は HTML を同時に変更するとこが出来ないので CSS で変更します。

デザイン等ページの見た目も崩れていないか確認し、ページを完成させます。

今回作成した検索結果ページは、以下の様になりました。

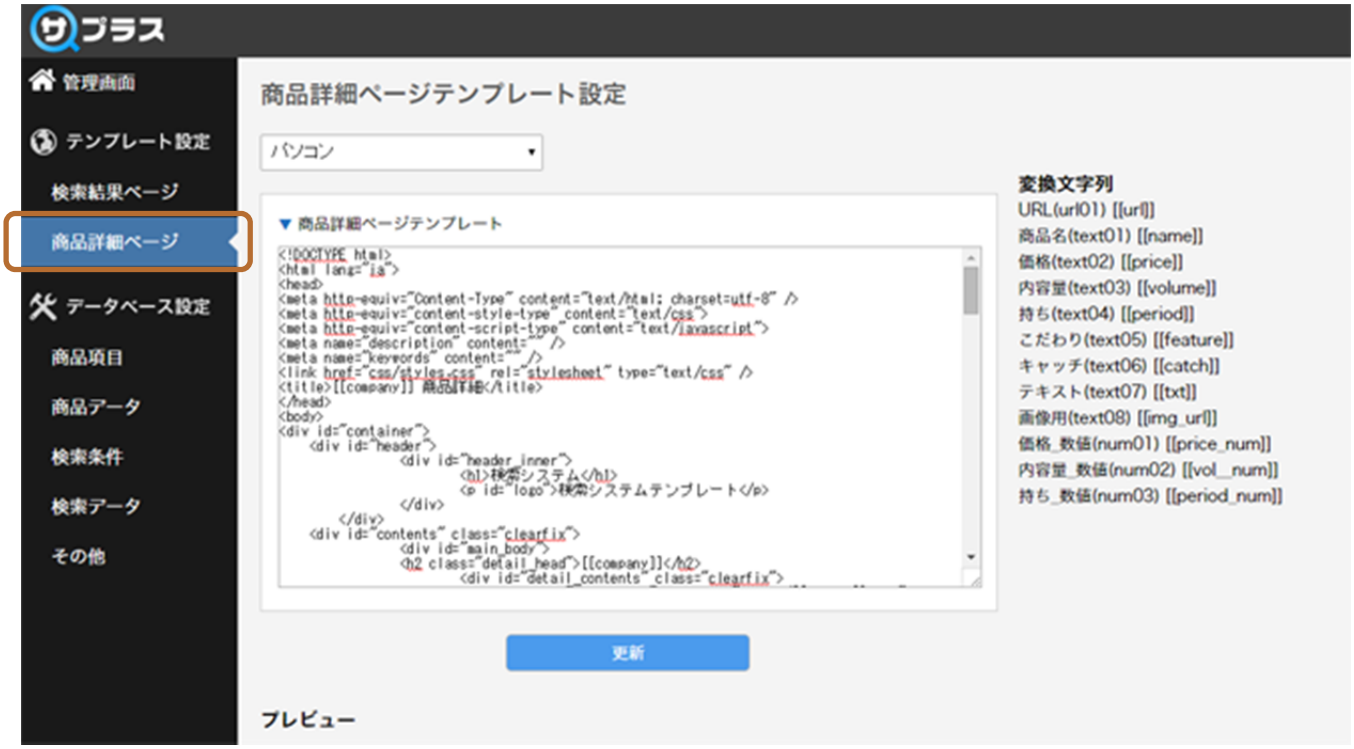
http://serplus.org/after/search.php

これで、検索ページの設定は完了です。

次に詳細画面の設定についても簡単に説明します。

詳細画面のテンプレート設定は、検索画面とほとんど一緒です。

メニューのテンプレート設定-商品詳細ページをクリックして商品詳細ページテンプレート設定画面を開きます。



商品詳細ページでは、ページ全体のテンプレートのみの設定です。

そして、これが現在の検索結果ページです。HTML テンプレートはデフォルト状態です。

これを商品項目で設定した内容に合わせて、準備したテンプレートに変更していきます。

テンプレート内のデータを各変換文字列に置き換えて更新します。

更新した結果、以下の様に表示されるようになりました。

実際のページは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/detail.php?id=1

この状態の詳細ページのソースは以下の URL で確認できます。

http://serplus.org/after/source5.txt

これで検索結果ページと詳細ページのテンプレート設定が完了となります。

以上がサプラスの一通りの設定の流れになります。

ここから実際にトップページに検索フォームを設置し、動作確認をしていきます。

2-7.TOP ページに検索フォームを設置

サイトのトップページに検索フォームを設置します。

フォームの HTML は、管理画面-検索条件ページの下部（プレビュー画面下）PC 用/スマホ用検索フォーム HTML のテキストボックスからコピー＆ペーストで設置できます。

上記の HTML をコピー&ペーストし、以下の様に検索フォームを設置しました。

フォームのデザインは、css で設定しています。

2-8.動作確認・修正

設置が完了したら、実際に検索システムの動作確認を行います。

先ほど設置したフォームの検索ボタンを押してみましょう。

※検索ボタンを押しても動かない時は・・・

・<form…>タグは正しく入っていますか？

⇒form タグが正しく入っていないと、検索システムが動作しません、各 input 要素、検索ボタン等、フォーム全体を囲むように form タグを設置してください。

・検索ボタンの JavaScript を編集していませんか？

⇒検索ボタンは JavaScript で動作しています。ボタンのタグ内の「onClick="document.s_form.submit();"」のタグは削除しないようにしてください。

検索が実行されたら、検索結果ページが正しく表示されているか、検索条件に合った検索結果が出ているかを確認します。また、並べ替えやページングなども正しく行えるかチェックしましょう。

指定した検索条件違う検索結果が出ている場合は、商品データの設定や検索条件が間違っていると言う事なので、管理画面で各データのチェック・修正を行います。

動作確認・修正を繰り返し、正しく動作するようになったらサプラスの実装は完了です。

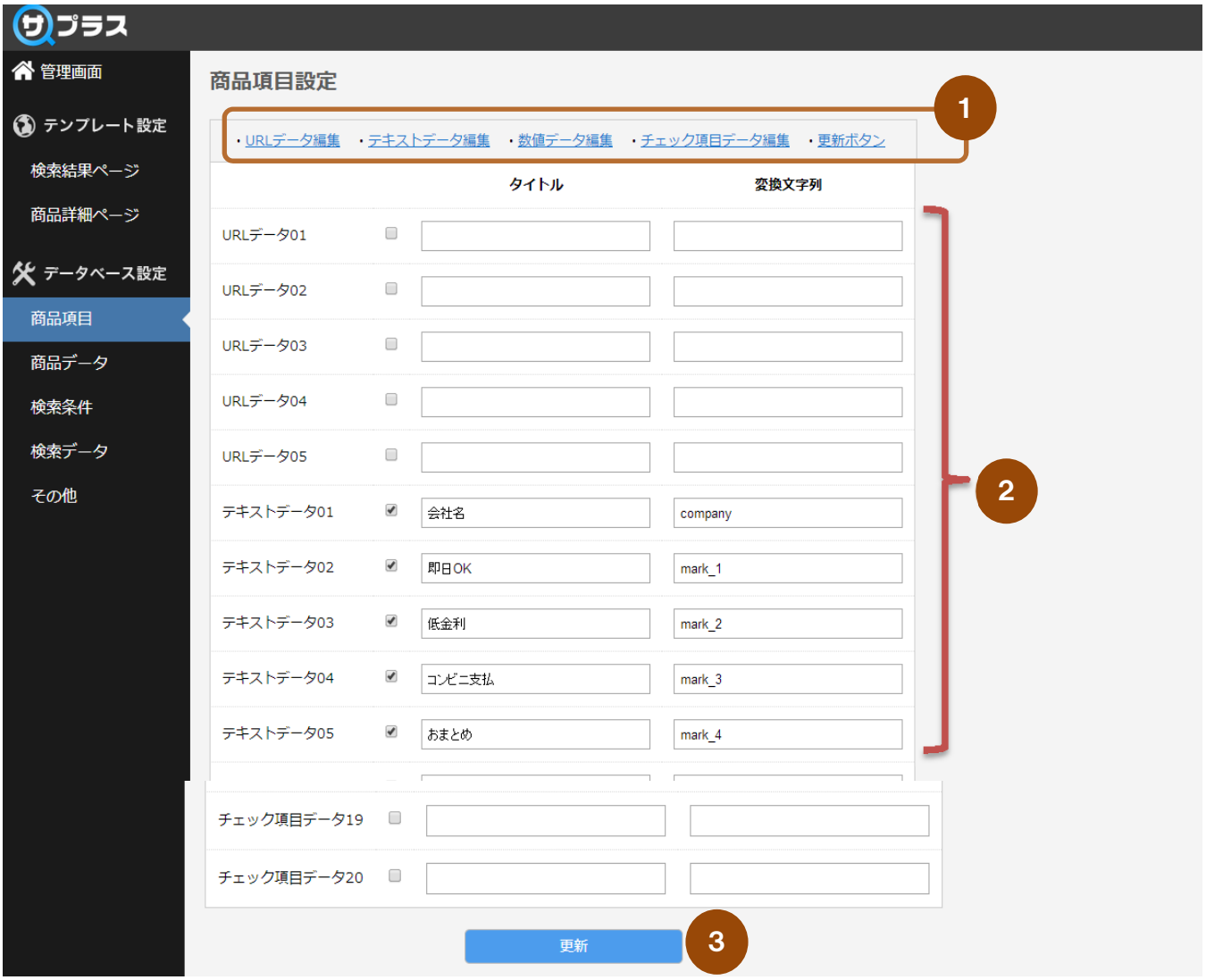
以下の URL からサプラス挿入後のサイトが確認できます。

サプラス挿入後：http://serplus.org/after/

3.商品データの管理

3-1.商品項目の設定

利用する項目に分かりやすい名前や変換文字列を登録しましょう。



① ページ内移動リンク

クリックされた項目にページ内を移動します。

② 商品項目

チェックボックス・・・登録する項目にチェックを入れます。チェックを外して更新することで削除することも出来ます。

タイトル・・・その項目に入れるデータを表す分かりやすい項目名を入力します。

変換文字列・・・テンプレート内で置換する変換文字列を指定できます。**半角英数で指定してください。**

③ 更新ボタン

クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

3-2.商品データの管理

検索の対象になる商品データを管理することできます。

① 新規追加ボタン

商品データ追加画面に移動します。

② 選択項目の一括削除ボタン

⑤のチェックボックスにチェックがついているデータを一括で削除することができます。

③ CSV インポート画面

CSV インポート画面に移動します。

④ CSV エクスポート画面

商品データを CSV 形式でエクスポートすることができます。

データの一括削除や編集の前にバックアップとしてご利用ください。

⑤ データ編集ボタン

チェックボックス・・・選択項目一括削除の時に利用します。

編集ボタン・・・クリックした商品データの編集画面に移動します。

表示ボタン・・・クリックした商品データを一時的に非表示にして、検索結果に表示させなくできます。

非表示ボタン・・・非表示になっている商品データを表示するように変更します。

削除ボタン・・・クリックした商品データを削除します。

並べ替えリンク(△▽)・・・商品データの優先順位を並べ替えることが出来ます。検索結果は条件が同じ場合この優先順位の順番で表示されます。

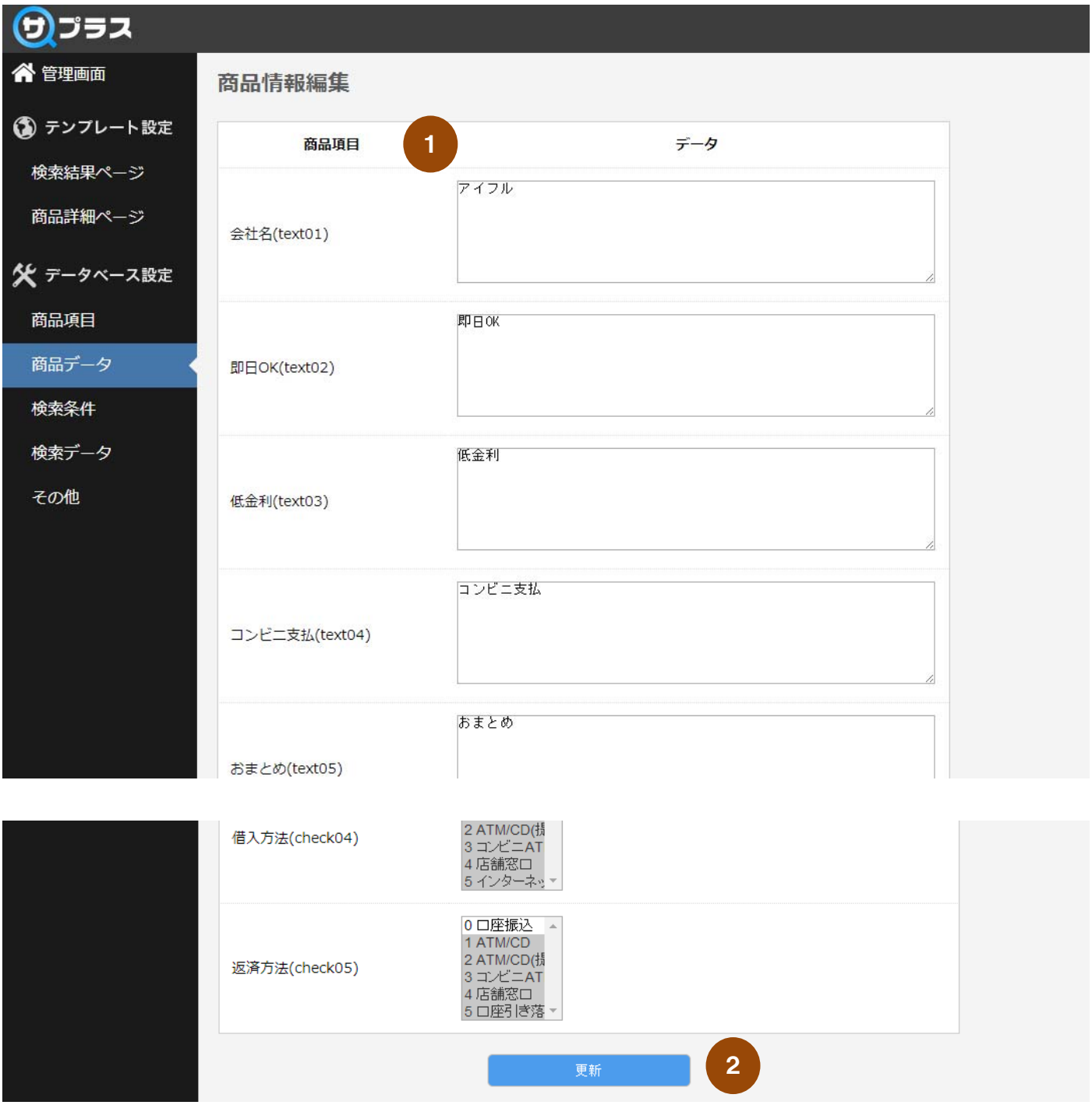
⑥ 商品データ表示領域

項目名・・・商品項目で設定したタイトルが表示されます。

商品データ・・・登録した商品データの内容が表示されます。

3-3.商品データの追加・編集

商品データの追加、編集を行なうことができます。



① 商品データ入力項目

商品データを入力する項目です。Html タグも利用可能です。

商品データの入力する項目を増やしたい場合は商品項目設定で増やしてください。

② 更新ボタン

クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

3-4.商品データの CSV インポート

① ファイル選択ボタン

インポートする CSV ファイルを選択することができます。

インポートする CSV ファイルのファイル形式は下記を参考にしてください。

A 列・・・データ ID。1 から連番を入力します。

B 列・・・表示優先順位。

C～G 列・・・URL データ１～５。

H～BE 列・・・文字列データ１～５０。

BF～DC 列・・・数値データ１～５０。

DD～DW 列・・・チェック項目データ１～２０。

DX 列・・・表示/非表示フラグ。0:表示しない 1:表示する。

サンプル CSV

アップロードする CSV ファイルの文字コードは「UTF-8」にてしてください。

それ以外の文字コードでアップロードすると正しくインポートされません。

② アップロードボタン

①で選択した csv ファイルをデータベースにインポートします。

元の商品データは全て削除されますのでインポートする場合エクスポート機能を使ってデータをバックアップしておくことをおすすめします。

4.検索条件の管理

4-1.検索条件の設定

商品データを検索するための条件を設定することができます。

① 新規追加ボタン

検索条件追加画面に移動します。

② 選択項目の一括削除ボタン

⑤のチェックボックスにチェックがついているデータを一括で削除することができます。

③ CSV インポート画面

検索条件 CSV インポート画面に移動します。

④ CSV エクスポート画面

検索条件データを CSV 形式でエクスポートすることができます。

データの一括削除や編集の前にバックアップとしてご利用ください。

⑤ データ編集ボタン

チェックボックス・・・選択項目一括削除の時に利用します。

編集ボタン・・・クリックした検索条件の編集画面に移動します。

データ編集・・・クリックした検索条件の検索データ編集画面に移動します。

表示ボタン・・・クリックした検索条件を一時的に非表示にして、検索結果に表示させなくできます。

非表示ボタン・・・非表示になっている検索条件を表示するように変更します。

削除ボタン・・・クリックした検索条件を削除します。

並べ替えリンク(△▽)・・・検索条件の表示位置を並べ替えることが出来ます。

⑥ 検索条件表示領域

タイトル・・・検索条件のタイトルが表示されます。

表示形式・・・検索条件の表示形式が表示されます。

検索対応項目・・・検索条件が商品データのどの項目に対応しているか表示されます。

検索条件・・・検索条件の検索方法が表示されています。

表示・・・検索条件の表示/非表示が表示されています。

⑦ プレビュー

現在の検索条件の時ブラウザでどのように表示されるか確認することができます。

⑧ 検索フォーム HTML

検索フォームを設置したいときにこの HTML を利用します。

4-2.検索条件の追加・編集

検索条件の追加、編集を行なうことが出来ます。

① 検索条件入力項目

ヘッダー・・・検索条件のタイトルを入力する項目です。Html タグも利用可能です。

表示形式・・・プルダウン、リストボックス、チェックボックス、オプションボタン、テキストの中から検索条件の表示形式を選びます。複数の値を選択できるのチェックボックスのみで、リストボックスは複数選択は出来ません。

検索対応項目・・・この検索条件が商品データのどの項目を検索の対象にするのか選択します。

検索条件・・・この検索条件と他の検索条件が同時に指定された場合、OR 検索するか AND 検索するか選択します。

表示・・・この検索条件を表示するか表示しないか選択します。

② 更新ボタン

クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

4-3.検索条件の CSV インポート

① ファイル選択ボタン

インポートする CSV ファイルを選択することができます。

インポートする CSV ファイルのファイル形式はこちらを参考にしてください。

アップロードする CSV ファイルのの文字コードは「UTF-8」にてしてください。

それ以外の文字コードでアップロードすると正しくインポートされません。

A 列・・・データ ID。1 から連番を入力します。

B 列・・・表示優先順位。

C 列・・・タイトル。

D 列・・・表示形式。0:プルダウン　1:リストボックス　2:チェックボックス 3:オプションボタン 4:テキスト。

E 列・・・検索対応項目。url_item01～url_item05、text_item01～text_item50、num_item01～num_item50、check_item01～check_item20 の形式で入力します。

F 列・・・検索条件。0:AND 検索 1:OR 検索

G 列・・・表示/非表示フラグ。0:表示しない 1:表示する。

サンプル CSV

② アップロードボタン

①で選択した csv ファイルをデータベースにインポートします。

元の検索条件は全て削除されますのでインポートする場合エクスポート機能を使ってデータをバックアップしておくことをおすすめします。

4-4.検索データの設定

検索条件の検索データを設定することできます。

① 新規追加ボタン

検索データ追加画面に移動します。

② 選択項目の一括削除ボタン

⑥のチェックボックスにチェックがついているデータを一括で削除することができます。

③ CSV インポート画面

検索データ CSV インポート画面に移動します。

④ CSV エクスポート画面

検索データを CSV 形式でエクスポートすることができます。

データの一括削除や編集の前にバックアップとしてご利用ください。

⑤ 検索条件選択プルダウン

設定対象となる検索条件を選択します。

⑥ データ編集ボタン

チェックボックス・・・選択項目一括削除の時に利用します。

編集ボタン・・・クリックした検索データの編集画面に移動します。

削除ボタン・・・クリックした検索データを削除します。

並べ替えリンク(△▽)・・・検索データの表示位置を並べ替えることが出来ます。

⑦ 検索データ表示領域

ヘッダー・・・検索データの表示内容が表示されます。

データ・・・検索の条件となる検索データが表示されます。

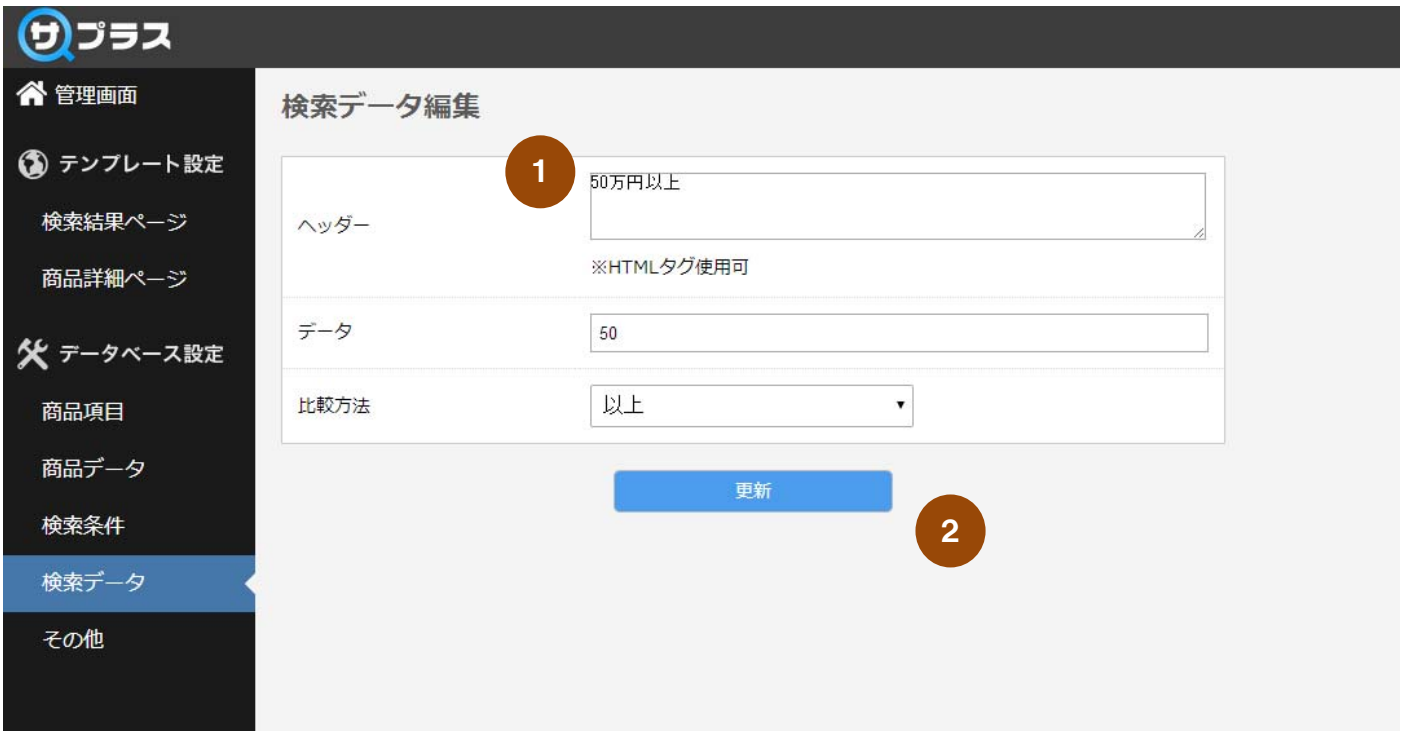
比較方法・・・検索時に検索データの比較方法が表示されます。

⑧ プレビュー

現在の検索データの時ブラウザでどのように表示されるか確認することができます。

4-5.検索データ追加・編集

検索データの追加、編集が行えます。



① 検索データ入力項目

ヘッダー・・・検索データの表示内容を入力する項目です。Html タグも利用可能です。

データ・・・検索の時の元となるデータを入力します。

比較方法・・・比較方法を指定しない、イコール、未満、以下、より大きい、以上から選択します。検索時にこの項目が選択された場合、データと比較方法を条件に検索が行なわれます。

例えば、借入限度額が 50 万円以上のデータをこの検索データで抽出したい場合は、データに「50」入力し比較方法に「以上」を選択すれば条件にあった検索データを作ることができます。

② 更新ボタン

クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

4-6.検索データの CSV インポート

① ファイル選択ボタン

インポートする CSV ファイルを選択することができます。

インポートする CSV ファイルのファイル形式はこちらを参考にしてください。

アップロードする CSV ファイルのの文字コードは「UTF-8」にてしてください。

それ以外の文字コードでアップロードすると正しくインポートされません。

A 列・・・データ ID。親となる検索条件データ ID を入力します。

B 列・・・表示優先順位。

C 列・・・ヘッダー。

D 列・・・データ。数値で入力します。親となる検索条件がチェックボックスの場合は 1～50 の数値を重複なく入力します。

E 列・・・比較方法。0:指定しない 1:イコール 2:未満 3:以下 4:より大きい 5:以上。

サンプル CSV

② アップロードボタン

①で選択した csv ファイルをデータベースにインポートします。

元の検索条件は全て削除されますのでインポートする場合エクスポート機能を使ってデータをバックアップしておくことをおすすめします。

5.テンプレート編集機能

5-1.検索結果ページテンプレート編集

検索結果ページのテンプレートを編集することが出来ます。

① テンプレート切り替えプルダウン

編集するテンプレートをパソコンとスマートフォンに切り替えることができます。

② テンプレートデータ

テンプレートは各々下記の部分に該当します。

また各々テンプレートでは下記特殊変換文字列を利用することができます。

検索結果ページテンプレート search.html

変換文字列	変換対象	必須入力
[[search_result]]	検索結果テンプレート挿入位置	○
[[search_form]]	検索フォームテンプレート挿入位置	○
[[conditions]]	検索条件テンプレート挿入位置	○
[[result_num]]	検索結果条件一致件数	
[[paging]]	ページングリンク挿入位置	
[[num_item01_asc]]～[[num_item50_asc]]	該当データの昇順ソート用 Javascript	
[[num_item01_desc]]～[[num_item50_desc]]	該当データの降順ソート用 Javascript	
[[text_item01_asc]]～[[text_item50_asc]]	該当データの昇順ソート用 Javascript	
[[text_item01_desc]]～[[text_item50_desc]]	該当データの降順ソート用 Javascript	

検索結果テンプレート search_result.html

変換文字列	変換対象	必須入力
ユーザー設定変換文字列	該当データの URL、数値、テキストデータ	
[[url_item01]]～[[url_item05]]	該当データの URL データ	
[[num_item01]]～[[num_item50]]	該当データの数値データ	
[[text_item01]]～[[text_item50]]	該当データのテキストデータ	
[[detail_url]]	該当データの詳細ページへのリンク	

検索フォームテンプレート serach_form.html

変換文字列	変換対象	必須入力
[[form_auto]]	検索条件設定に沿った検索フォーム	○
[[action_url]]	POST 先の search.php の絶対パス	

検索条件表示テンプレート conditions.html

変換文字列	変換対象	必須入力
[[conditions_auto]]	検索条件	○

※必須入力に○がついた項目はテンプレートから削除しないでください。システムが正常に動かなくなる可能性があります。

※検索フォーム等システムによって自動的に生成される個所の HTML を変更することはできません。デザインを変更したい場合は CSS にて設定を行ってください。

③ 変換文字列

検索結果テンプレート内で利用できる変換文字列が表示されます。

④ 更新ボタン

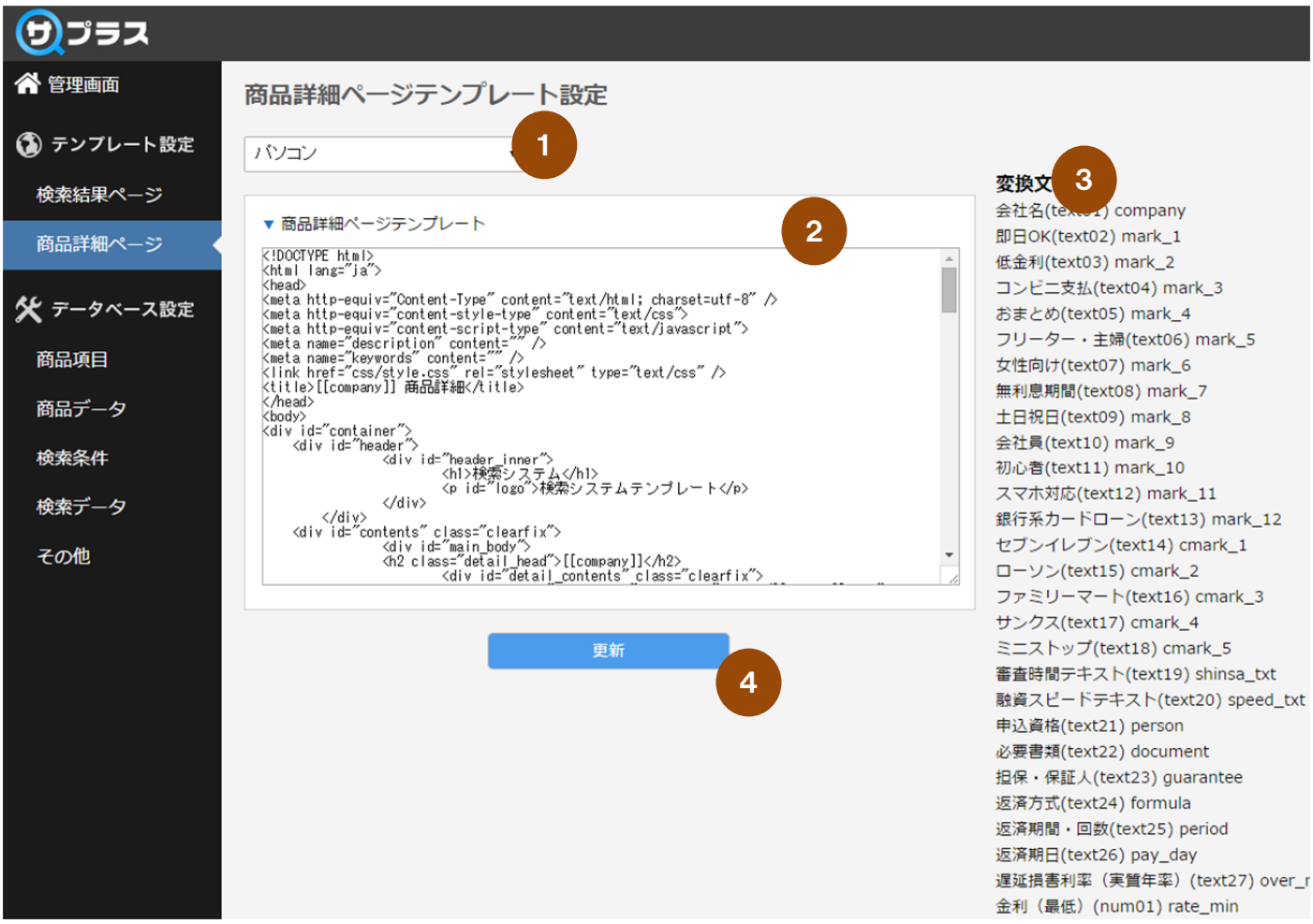
クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

⑤ プレビュー

現在のテンプレートがブラウザでどのように表示されるか確認することができます。

5-2.商品詳細ページテンプレート編集

商品詳細ページのテンプレートを編集することが出来ます。



① テンプレート切り替えプルダウン

編集するテンプレートをパソコンとスマートフォンに切り替えることができます。

② テンプレートデータ

商品詳細ページのテンプレートが表示されています。

商品詳細ページテンプレートでは下記特殊変換文字列を利用することができます。

商品詳細ページテンプレート detail.html

変換文字列	変換対象	必須入力
③変換文字列	該当データの URL、数値、テキストデータ	
[[url_item01]]～[[url_item05]]	該当データの URL データ	
[[num_item01]]～[[num_item50]]	該当データの数値データ	
[[text_item01]]～[[text_item50]]	該当データのテキストデータ	

③ 変換文字列

商品詳細ページテンプレート内で利用できる変換文字列が表示されます。

④ 更新ボタン

クリックすることで入力した内容をデータベースに保存します。

⑤ プレビュー

現在のテンプレートがブラウザでどのように表示されるか確認することができます。

テンプレートとはテンプレート編集機能を使って編集することもできますし、サーバーの「./search/manage/template」フォルダ内に直接テンプレート HTML をアップすることでも編集可能です。

6.その他設定

6-1.その他設定

サプラスのその他機能の設定ができます。

① 0 秒リダイレクト

0 秒リダイレクトが利用するに設定した場合、URL アイテム 01～05 の URL が 0 秒リダイレクト用の URL に変換されます。

② リダイレクトページ設置タグ

①の 0 秒リダイレクトが「利用する」の場合に URL クリック時に表示される 0 秒リダイレクト用のページに埋め込むタグを設定することができます。コンバージョンタグやリマーケティング用のタグの設置に利用できます。

③ PC・スマホの切り替え

利用するに設定すると検索結果ページ、商品詳細ページにスマートフォンでアクセスした時にスマホ用のテンプレートが表示されます。PC とスマートフォンのページを切り替えない場合は利用しないを設定してください。

④ 検索結果表示件数

検索結果画面の１ページに表示する商品の最大件数を設定できます。1 以上の数値設定するようにしてください。

⑤ 更新ボタン

クリックすることで①～④の設定内容をデータベースに保存します。

⑥ データベーステンプレート

はじめてログインした時に設定するデータベーステンプレート設定画面と同じ機能です。データベースの設定内容をデータベーステンプレートで更新します。注意書きにもあるように現在設定されているデータが全て上書きされてしまうので、利用する際はバックアップをとってから行なうようにしてください。

⑦ 更新ボタン

クリックすることで⑥で選択したデータベーステンプレートの内容でデータベースの内容を上書きします。